

KWU

図書館だより

Library News

No.13 2009



特集 貴重書紹介

- ・ウィリアム・モリスとケルムスコット・プレス
- ・「江湖快心録」雪佳が語る—図書資料としての新聞—

Kyoto Women's University

Contents

■ 図書館長だより

図書館を愛した人・サルトル『嘔吐』の「独学者」

図書館長 海老井 英次 …………… 1

■ 特集1:〈貴重書紹介〉

ウィリアム・モリスと ケルムスコット・プレス

生活造形学科教授 鈴木 佳子 …………… 3

■ コラム

大学生の図書館活用法

現代社会学科准教授 江口 聡 …………… 8

■ 図書館からのお知らせ

図書館資料展観 …………… 10

平成20年度新規購入資料 …………… 11

本館・分館・雑誌室より …………… 12

■ 特集2:〈貴重書紹介〉

「江湖快心録」雪佳が語る — 図書資料としての新聞 —

雪佳研究会 …………… 一



表紙・裏表紙

書名: The roots of the mountains wherein is told somewhat of the lives of the men of burg, dale their friends their neighbours their foemen and their fellows in arms
「山々の麓」

出版: London, 1890

著者: William Morris (1834-1896)

この本は1890年のアーツ・アンド・クラフツ展に出品された。印刷用紙はワットマン紙。印刷はチズウィック・プレス、装丁にはモリスがデザインし、マートン・アビーのモリス工房でプリントされたスイカズラ模様の麻地布を使用。250部限定版。モリス工房の布で装丁された唯一の本。

請求記号: 933/Mo78

図書館を愛した人・サルトル『嘔吐』の「独学者」

図書館長 海老井 英次

フランスの実存主義哲学者であり作家であった、ジャン・ポール・サルトルは昭和30年代から40年代を中心にした一時期学生に大人気で、『サルトル全集』が翻訳出版されて、当時の哲学・文学・演劇青年に広く愛読されていた。同じくフランスの作家であったアルベール・カミュとともに、学生演劇の舞台にのせられることも多かった。よく知られた例では、ノーベル賞作家大江健三郎氏は東大時代にサルトルの影響下に新しい小説を発表し、芥川賞を受賞し文壇へデビューしたのだった。氏のデビュー作「死者の奢り」(昭和32年)に漂うムードは1960年代の青年に共通のものだったのである。

そのサルトルの代表作とされる小説『嘔吐』(1938年)の影響は、これまた絶大であった。当時の学生小説には、よく青年達が嘔吐する場面が描かれていたものである。一口に言えば、世界との違和感が嘔吐という行為になるのであるが、当に世界は否定されるべきものとしてあったのであり、青年達はその否定・改革に挑んでいたのである。60年代は学生運動華や

かなりし日々であった。

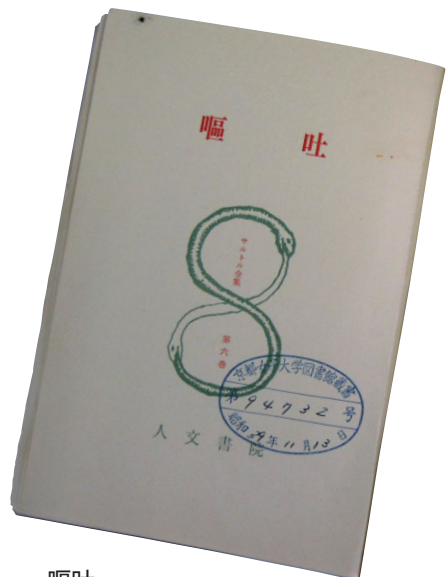
さて、その『嘔吐』の中に、主人公のロカンタンとともに忘れられぬ人物像を形成していたのが、作中で「独学者」と呼ばれているところの一人物である。彼はブーヴィルの町の図書館に日課のように通い、読書につぶす日々を重ねているのである。彼にとっては人生は、生きるとは、読書に他ならないのである。ロカンタンと共に私が衝撃を受けたのは、彼の読書法である。彼は図書館の蔵書を全て読み尽くそうとの野望に囚われていたのだが、蔵書を実に著者名のアルファベット順に読破していたのである。「甲虫類に関する研究から量子論に関する研究」に移るような読み方を平気で続けて、今は「L」にまで来ているというのである。我々が馴染んでいる図書の配列は学問大系に従ってアメリカのデューイが考案した「十進分類法」(現行のものは「日本十進分類法」と言われるもの)であるが、それに従えばある時期には哲学ばかり、ある時期は宗教ばかり、ある時は社会科学ばかりを読み上げて、やがて芸術や文学の世界に突入

していくことになり、いつの日にかは「百科全書派的」学問大系を自分のものにする日がくるように思われるが、「独学者」の場合、はたしてどんな知識体系を自分のものに出来るのであろうか。

こんな変人の話を持ち出したのは他でもなく図書館の蔵書の整理・管理法がいまや大きな問題になっており、いかに限られたスペースになるべく多くの本を収納し、かつ機能的にそれを出し入れするかは、多くの図書館で工夫を凝らし、しかる後何処でも頭を悩ませている課題なのである。西欧では前3000年頃のパピロニアの遺跡に確認されると言われる図書館的なものの中で、変わらずに問われていた問題だとも思われる。

入荷順に書籍の判型に従って分類し収納すればスペースは最小に抑えられるであろう。そして蔵書番号をコンピュータ管理し、書庫からは機械的に選書するシステムが一番効率的には優れたもののようである。しかし、大きさでこそきちんと書籍は揃っているが全くアトランダムに並んでいる書庫になる。コンピュータの方に何らかの形で体系化された蔵書目録があれば、それに従って本は書庫から選び出されてくることになり、何の問題もなさそうである。しかし、蔵書との直接の接触が完全に断たれてしまって大丈夫だろうか、本と自分との間に常にコンピュータが介入

することに、やはり一抹の不安が覚えられるのである。本は自分で選ぶものであり、その時にどのような情報や係わりがあれば、本を正しく選べるのであろうか。かつて国会図書館で借り出した現物を手にして初めて「こんな本か」と失望を覚えたことが少なからずあったが、それは選ぶ側の責任だけに帰すべき問題だろうか。やはり図書館として備えているシステムの問題のようにも思われるのである。本を選ぶことに意識的になることから、知的生活が始まるのではなかろうかと思うのである。その点をパスしてしまっていた「独学者」のその後に興味のある方は、是非『嘔吐』を一読してみたい。



嘔吐
(請求記号 N135.9/Sa69/6)

ウィリアム・モリスとケルムスコット・プレス

William Morris (1834-1896)

生活造形学科教授 鈴木 佳子

19世紀の後半英国のヴィクトリア朝時代の、多才な芸術家(詩人、思想家、画家、デザイナー)であるウィリアム・モリス。近代デザインの展開はモリスに始まるといわれている。

本学の文学部でも多くの研究者がいる。今回はモリスが最後の仕事として実現した、ケルムスコット・プレスの書籍を京都女子大学図書館が多数所蔵していることに関して、資料紹介をしてみたい。

モリスはタイポグラフィとしては「グーテンベルグ聖書」を最高のものと考え、美しい印刷本の要は活字であると考えた。

モリスは1856年頃(オックスフォードの学生時代)に彩飾手稿本を手がけはじめる。ゴシック風の中世後期の稿本をモデルにし、その後約15年を経て1870年頃に再び稿本が取り上げられて5~6年続いたが、その書き文字スタイルはローマン体であった。

モリスの芸術観の基礎にゴシックの2本柱があり、ゴシック建築と装飾稿本があった。1870年になり装飾芸術の世界で成果を上げてきた時期に再び装飾稿本を勉強し選んだ書体が、人文主義者たちの生み出したスクリプトである(1870年)。この年代にわかっている最初のもので「A Book of Verse」であり、バーン・ジョーンズ夫人ジョウジアナに捧げられた。これは1872年から始まる壁紙デザインの先駆けとも思われる。

モリスのカリグラフィとタイポグラフィ

| | |
|---------|---|
| カリグラフィ | ゴシック体(ブラック体) ローマン体 |
| タイポグラフィ | ゴシック体・トロイ体 ・チョーサー体 (トロイ体を小さくしたもの) ローマン体・ゴールデン体 |

モリスが装飾稿本を再開した時、ローマン体をとったのはなぜか? モリスは4冊の16世紀のイタリアの書法の本を持っていたと言われて

いる。その書法と大英博物館での研究は多くのリーフとして残っている。またこれらの集大成と言われるモリス最後のカリグラフィは「ウェルギリウスのアイネーイス」(Aeneids of Virgil)といわれている。今日のカリグラフィはモリスからエドワード・ジョンソン(近代カリグラフィの指導者)を通して現代に繋がっている。では、カリグラフィからタイポグラフィへと言うと、モリスのローマン字体活字のデザインはヴェネチアのニコラ・ジェンソン* Nicolas Jeansonの1472年版プリニ



[A Book of Verse]

ウィリアム・モリス著 リンダ・バリー著 P.303

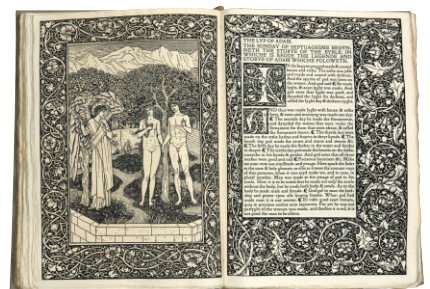
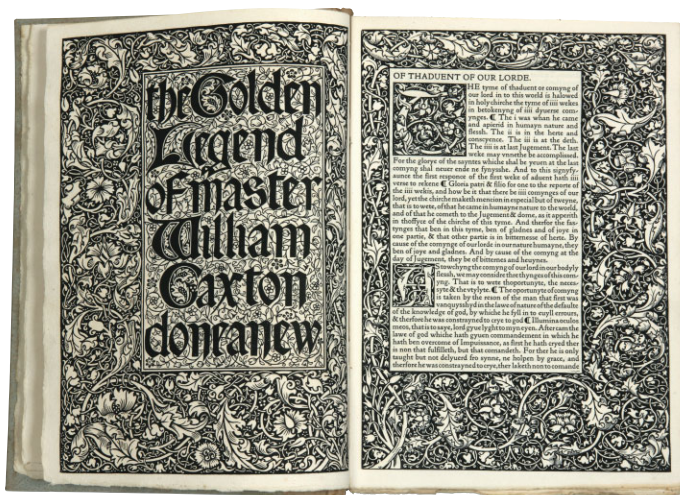
ウス「博物誌」と後輩で同僚のジャック・ル・ルージュのアレティヌス「フィレンツェ史」1476年版を研究し参考にした。そしてできたのがモリスのローマン体である。

ケルムスコット・プレス以前では、1890年モリス著「山々の麓」をチジェック・プレスで刷った。書体はパール体 (Basel Type) の改良されたもの (当時出回っていたローマン体の中でモリスが最もよいとして採用した活字——バーゼル・ロマンのeの字の横線(バー)が斜めであったのを水平にした活字) であった。

次に京都女子大学の所蔵するケルムスコット・プレスから何点かを紹介したいと思う。ケルムスコット・プレスの最初の出版は後で紹介する本と同名の「輝く平原の物語」で、ただ一つ2度の出版をしている、最初の1891年4月印刷5月刊行の本はローマン体である。このローマン体は、エマリー・ウォーカーの協力を得て自らの活字をデザインした最初のローマン体である。「The Golden Legend」(黄金伝説) に因んでゴールデン体と名付けられた。

●「The Golden Legend」(黄金伝説)

大型4折本(29cm)3巻本 パーン・ジョーンズの木版扉絵・挿絵2枚縁枠装飾図案(モリス)、手漉刷本500部限定、価格5ギニ、1892年刊行。



[The Golden Legend]

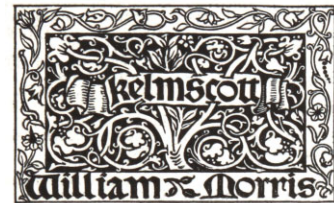
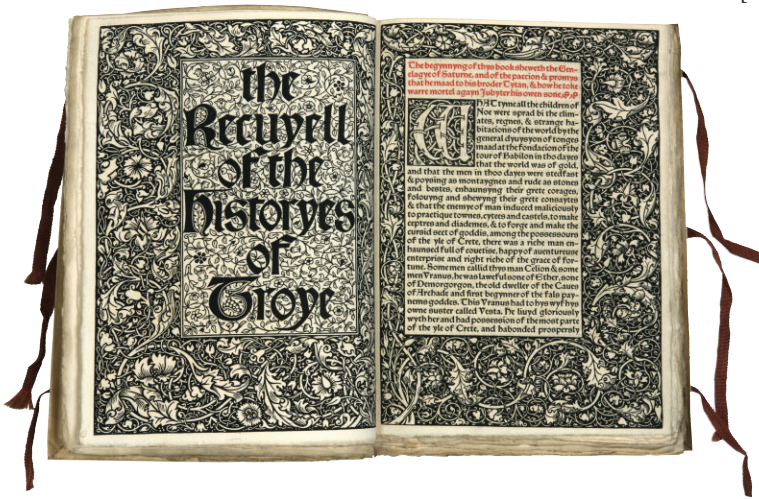
(請求記号 992/G61/1-3)

●「The Recuyell of the Histories of Troye」(トロイ戦史抄)

トロイ体(ゴシック体)で出版され、1892年10月印刷11月刊行、大型4折本(29cm)2巻本、トロイ体、目次、付録はチョーサー体、黒赤2色刷、モリスによる頭文字や装飾図案が多数デザインされている。手漉紙刷本300部限定 価格9ギニ、ヴェラム刷本5部、価格80ポンド。

[The Recuyell of the Histories of Troye]

(請求記号 231.1//A4)

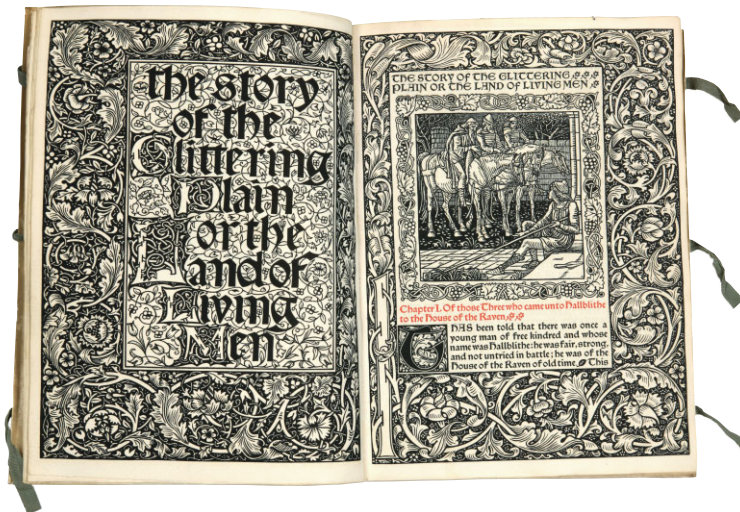


●「The Story of the Glittering Plain」(輝く平原の物語)

大型4折本(29.5cm)トロイ体、目次はチョーサー体、黒赤2色刷、レヴァレット彫刻、ウォルター・クレイン画の木版挿絵と縁枠装飾画23枚、縁枠装飾図案(モリス)、手漉紙刷本250部、価格5ギニ、ヴェラム刷7部、価格20ポンド、1894年1月印刷、2月刊行。

[The Story of the Glittering Plain]

(請求記号 933.6/Mo78)



man loved an exceeding fair damsel called the Peesage, who was of the House of the Rose, wherein it was right and due that the men of the Raven should wed. She loved him no less, and no man of the kindred gainsaid their love, and they were to be wedded on Midsummer Night.

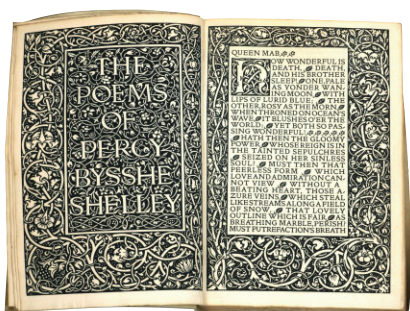
THIS one day of early spring, when the days were yet short & the nights long, Halibithe sat before the porch of the house smoothing an ash stave for his spear, & he heard the sound of horsecloths and hoofs drawing nigh, and he looked up and saw folk riding toward the house, and so presently they rode through the garth gate; and there was no man but he about the house, so he rose up and went to meet them, and he saw that they were but three in company: they had weapons with them, and their horses were of the best; but they were no fellowship for a man to be afraid of: for two of them were old and feeble, and the third was dark and ead, and drooping of aspect: it seemed as if they had ridden far and fast, for their spurs were bloody and their horses all a-sweat. Halibithe hailed them kindly and said: "Ye are wayworn, and maybe ye have to ride further; so light down and come into the house, and take bite and sup, and hay and corn also for your horses; and then if ye needs must ride on your way, depart when ye are rested; or else if ye may, then abide here night-long, and go your ways to-morrow, and meantime that which is curs shall be yours, and all shall be free to you." Then spake the eldest of the elders in a high piping voice and said:



〔The Wood beyond the world〕(請求記号 933/Mo78)

●「The Wood beyond the world」(世界の果の森)

8折本(20.7cm) チョーサー体、黒赤2色刷、スプレイルマイア刻、バーン・ジョーンズ画木版口絵、木版縁枠、頭文字装飾、縁枠装飾図案モリス、手漉紙刷本350部限定、価格2ギニ、ヴェラム刷本8部、価格10ギニ、1894年5月印刷、10月刊行。



〔The Poetical works of Percy Bysshe Shelly〕
(請求記号 931/Sh14/1-3)

●「The Poetical works of Percy Bysshe Shelly」

(シェリー詩集)3巻本

8折本(20.4cm)、ゴールデン体、第1巻は黒単色刷、第2・3巻本は黒赤2色刷木版扉、縁枠、頭文字装飾画・図案(モリス)手漉紙刷各250部限定、価格25シリング、ヴェラム刷各6部、価格 8ギニ、1894~1895年刊行。



〔Hand & Soul〕(請求記号 AN720.28/R73)

●「Hand & Soul」(手と魂)

ダンテ・ガブリエル・ロゼッティ作

16折本(14.3cm) ゴールデン体、黒赤2色刷木版扉、縁枠頭文字装飾画・図案、手漉紙刷300部とヴェラム刷11部(アメリカ向け)、国内紙刷本、225部限定、価格10シリング、ヴェラム刷10部限定、価格30シリング、1895年10月印刷、12月刊行。



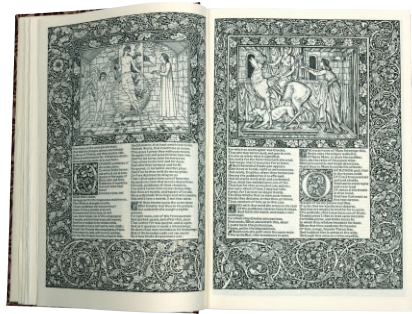
〔The Works of Geoffrey Chaucer〕
(請求記号 931/C36)

●「The Works of Geoffrey Chaucer」

(チョーサー作品集)

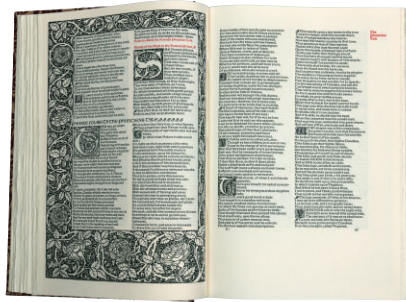
ジョフリー・チョーサー作

大型2折本(42.4cm) チョーサー体、長詩の見出しはトロイ体、2段組。黒赤2色刷、木版バーン・ジョーンズ画、W.H.フーバー刻の挿絵87枚、モリスの木版扉、大型縁枠装飾画14枚、枠装飾18種、大型頭文字装飾画26種、縁枠装飾図案14種、手漉紙刷本425部限定、ヴェラム刷13部、1896年5月印刷、6月刊行、特装本あり(京都女子大学にあるのは復刻版)。



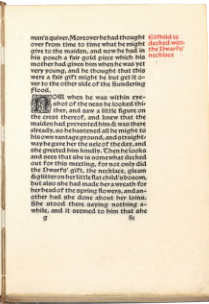
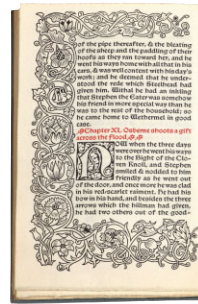
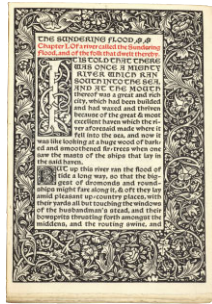
[The Works of Geoffrey Chaucer]

(請求記号 931/C36)



●「The Sundering Flood」(サンダリング フラッド) W・モリス作

8折本(20.5cm) ちょうさー体 黒赤2色刷。地図1葉、木版縁枠と頭文字裝飾画、縁枠裝飾図案、手漉紙刷本300部限定、価格2ギニ、1897年11月印刷 1898年2月刊行 この刊本はモリスの物語小説の最後の著作である。



[The Sundering Flood]

(請求記号 933/Mo78)

これらの美しい本たちは私たちに何を語りかけているのだろうか、ウィリアム・モリスの本は19世紀印刷が多様化され、しかもたくさん印刷される工業化の波に乗って、本そのものの価値を問うのでなく、ただ知識を伝達する道具になったとき、時代の流れに対してモリスは中世のギルドのものづくりに帰ろうとし美しいものを創造しようとした。その流れの中でプライベート・プレスに行き着いた。その思いを込めた本たちが今も私たちに問い続けている。

装飾過剰といわれ、モリスの次の時代ノイエ・ティポグラフィの時代を経て、なお、美しく人々を引きつけている。これらの本を見ることが出来る幸福をみんなと分かち合いたいと思う。

*Nicolas Jeanson: トロワの近くで生まれたフランス人でフランス人では最初の重要な印刷術者、王立造幣局の金属細工と関係深い技官が王の命令で印刷術の秘密を探るためマインツに送られた(1458年)。その後1470年まで記録がなく、1470年に独立してヴェネチアで仕事を始める。

Tertio transpositione: cum praposition postponitur tra naturā suā tunc enim ulūma acuitur. ut transtr. Maria omnia circum.

Column

大学生の図書館活用法

現代社会学科准教授 江口 聡

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

大学生と高校生との一番大きな違いは、なんといっても自由な空き時間があることです。授業がない時間帯もあります。高校生までのようにいつもクラス単位で動いているわけではないので、友達がいっしょにいないひとりぼっちの時間もけっこうあります。大学生になると特に決まった教室があるわけではないので、どこにいればよいのかわからないといったこともあるかもしれません。

そんな予定のない時はどこに行けばよいのでしょうか？私は大学から大学院にかけてずいぶん長い時間大学で生活していたのですが、ヒマな時間はいつも図書館で過ごしました。大学講師として授業をする側にまわってからも、行く先々の大学の図書館で調べものをしたり時間を調整したりしています。私の個人的な経験から図書館の使い方を紹介してみます。

場所を確認しよう

まず図書館の場所を確認しましょう。京女の図書館はE校舎の本館とJ校舎の分館の二つに分かれています。分館の方がイスと机が広々していて快適かもしれませんね。なんとなくお気に入りの机やイスを見つけておくと、図書館に

いるのが快適になります。

さて、本が並んでいる開架書架をゆっくり一周して、だいたいどこにどんな本があるのかを把握しておきます。興味をひく本のまわりには同じように興味をひくことが多いです。ぱらぱらめくってみましょう。知的な興味がどんどん広がってゆくはずですよ。そうしているうちに大学生活の最初の1、2ヶ月は経ってしまうかもしれませんね。

本館地下の雑誌室にも注目してください。下宿を始めて、生活費節約のために新聞をとってない人もいるかもしれません。しかしそういう生活を続けると、社会の動きを何も知らない人になってしまいます。勉強のためにも就職活動のためにも新聞には必ず目を通しておくこと。京都新聞の地域面などの犯罪情報にも注意！難しい勉強関係の雑誌の他に、ファッション雑誌などもあるので自分で買う必要がなくなります。

他に皆さんが直接本を眺めることのできない閉架書架や学外書庫に納められている本もあります。それらを調べるためのOPAC(オンライン蔵書検索)の使い方とも利用の手引きで確認してください。



ノウハウ本と新書を活用する

さて、「図書館」「読書」というと、小説などの「文学」という印象が強い人が多いかもしれませんが。でも私が大学生活での読書でおすすめしたいのはむしろノウハウ本です。私自身、なにか新しいことを始めるときは、とにかくそれに関係する本をざっと読むことから始めます。ダイエットでもジョギングでも盆栽でも。大学生生活をはじめるにあたって、授業の受け方、ノートの取り方、レポートの書き方、コンパでの自己紹介の方法など、いろんなガイドブックがあります。数年後にやってくる就職活動のときに、なにも知らないで手さぐりではじめるのと、あらかじめ何冊かのノウハウ本を読んでから始めるのではずいぶん違うものです。なにかをしようと思ったら図書館で調べる、という癖をつけると、他のぼんやりしている人たちよりずっと有利に物事を進めることができるようになるのです。

しかしなにかを調べるときにどこから手をつけてよいのかわからない、どこに本があるのかわからない、オンライン検索するにしてもなにをキーワードにすればよいのかわからない、ということもあるかもしれません。そういうときは、とにかく本館4階の新書のコーナーに行ってざっとタイトルを見てみましょう。きっとピンと来る本があるはずです。

視聴覚教材、絵本、マンガ、小説

図書館は「真面目な」本以外にも映画のビデオなども収蔵しています。視聴覚資料のコーナーを見てみましょう。時間があまったらいつでも映画を楽しめるというのはすてきだと思いますか？映画以外にもためになる資料はたくさんあります。「教養がない」とか言われないように、たとえばNHKの『映像の世紀』などを見ておくとよいでしょう。落語や音楽CDもありますので好きな人はどうぞ。また手塚治虫の漫画もあります。名作ぞろいなので全部読んでおきましょう。『ブッダ』を読んでおけば仏教学の単位もとりやすくなるかもしれません。

カウンターの人々と仲良くしよう

他、困ったこと、知りたいことがあったら、図書館カウンターのリファレンスに質問してみましょう。本を探してくれたり、探し方をアドバイスしてくれるはず。ただしなにも調べずに行くのはだめです。まず図書館の「利用案内」を熟読してしっかり質問を考えてから行きましょう。

府立図書館、市立図書館もチェック

また、他府県から京都に来た人は、府立図書館や市立図書館の場所もチェックしておきましょう。一般向けの軽い小説などはそちらの方が充実しているかもしれません。

それでは楽しい大学生活・図書館ライフを送ってください！

図書館からのお知らせ

図書館資料展観

図書館では、貴重書庫にあり普段見ることのできない図書資料を広く公開するために、年に数回「図書館資料展観」を実施しています。

平成20年度は2回実施し、どちらも好評を博しました。

京都女子大学・京都女子大学短期大学部図書館特別展 「信仰掛軸『鍾馗』・『大黒』 —無花果文庫本を中心に—」

〈平成20年9月24日～30日 建学記念館「錦華殿」にて実施〉

本学所蔵の「応挙画譜」の他、江戸から大正期の信仰掛軸を中心に展観を実施しました。

第8回 図書館資料特別展観

「鴨東散華 参 ～名残と融合～」

〈平成20年11月1日～15日 建学記念館「錦華殿」にて実施〉

平成18年度から本学周辺の地誌や名所案内等を紹介してきた「鴨東散華^{あひとうさんげ}」の企画ですが、平成20年度はその「参」として本学の南の地域を取りあげました。



◇主な展示資料：

- ・山城四季物語（1674年）
- ・西国順礼道中細見大全（1840年）
- ・栄花物語（1863年）
- ・親鸞聖人御茶毘所延仁寺御旧跡（1821年）

※八坂神社蔵の嵯峨本「自然居士^{じぜんこし}」を11月12日～14日の3日間特別展示しました。

平成21年度も展観を数回、様々な企画を予定しています。是非ご来場ください。

開催日程等は図書館の掲示板やホームページでお知らせします。お見逃しなく！

平成20年度新規購入資料

平成20年度に特別研究図書として、新たに図書館で購入しました。大いに活用してください。ご利用の際は、OPAC(蔵書検索)で確認の上、各カウンターにお申し込みください。

| 資料名(内容) | |
|--|-----------|
| 戦時転住局文書1942-1946 (大戦中の在米日系移民強制隔離の全容を明らかにする史料を収録) | マイクロフィルム |
| 東北大学附属図書館所蔵 狩野文庫マイクロ版集成(第10門Ⅱ兵学③兵法) (和漢古典の大コレクションである狩野文庫の「兵法」に関する江戸期史料を収録) | マイクロフィルム |
| Good Housekeeping Vols.1-111(1885-1940) (アメリカの家庭実用誌。育児、ファッション、美容、料理や婦人向け読み物もある。) | マイクロフィルム |
| 国立国会図書館所蔵 昭和前期刊行図書デジタル版集成(教育部門、団体・個人著作物) (学習指導、教科課程③「保健体育、家庭科教育、職業教育、職業指導、職業科」の分野のタイトルを収録) | CD-ROM |
| 国立国会図書館所蔵 昭和前期刊行図書デジタル版集成(社会科学部門、個人著作物) (社会一般・社会学、社会史・社会組織、生活問題、社会病理・社会事業・災害の分野のタイトルを収録) | CD-ROM |
| History of Education: 15th-20th Century. (米国コロンビア大学教育学部ミルバンク記念ライブラリー他が所蔵する15~20世紀の教育関係資料を収録) | マイクロフィッシュ |
| 新世界新聞 Japanese Daily New World Part I (May.1906-Aug.1919) Part II (Sept.1919-Oct.1932) (1894年にサンフランシスコで創刊されたアメリカ西海岸の日本人移民のための邦字新聞) | マイクロフィルム |

藤原利一郎文庫

本学元名誉教授の藤原利一郎先生からご寄贈いただきました図書の整理を終え、平成20年3月に、分館1階西側壁面に配架いたしました。

藤原先生は、昭和28年4月から昭和56年3月まで京都女子大学で東洋史の講義を担当されました。平成20年12月23日に惜しくもご逝去されました。

ご専門は東南アジア史の研究で、その先生の蔵書の一部を平成18年にご寄贈していただき、昨年から閲覧できることになりました。文庫の内容は、20世紀初頭から現在に至る東南アジア史研究の洋書が中心で、欧米の東南アジア研究のほかベトナムなどで出版された資料もあります。約1200冊の資料の中には日本の図書館では閲覧できない貴重な資料もあり、学外からの利用希望も非常に多くあります。本学の皆さんも、ぜひ利用してください。

本館より

E校舎

◆5階新着児童書コーナーが5階絵本コーナーになりました

皆さんが書店などで見かける絵本などが配架されているコーナーです。

絵本コーナーの中で、「昔話・民話」「知識(科学絵本など)」「ハンディキャップ(障害)」「仏教」をテーマとする絵本については、探しやすいようにテーマごとにまとめて並べています。また、外国語で書かれた絵本についても、わけて並べています。

※1984年以前に受入れられた絵本(請求記号にNがついたもの)や児童文学・童話集などは本館M3階にあります。詳しくはOPAC(蔵書検索)で検索してください。

◆絵本のテーマ特集をしました

本館新聞・雑誌コーナーに絵本の特集コーナーを設置し、さまざまなテーマで絵本の紹介を行いました。



◆教科書コーナーを5階に移動しました

本館が所蔵している小学校教科書などの最新版が配架されています。

◆統計・年鑑コーナーを5階に移動しました

国勢調査報告書と一緒に並べましたので、より利用しやすいコーナーになりました。

石附文庫

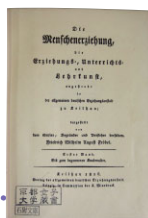
平成20年度に京都女子大学図書館個人文庫「石附文庫」が新たに架蔵、本館5階に配架されました。

石附実先生(1934~2006)は昭和41~43年オーストラリア国立大学極東史研究所員、翌昭和44年から天理大学助教授、教授を経て、大阪市立大学文学部教授、その後平成9年本学教授に就任、平成18年3月にご退職されました。

石附文庫内容:比較・国際教育学を中心とする教育学関係資料
ぜひご利用ください。

ただし、貸出はできません。

フレーベル著
「人間の教育」初版本
(請求記号 371.1/F48)



カズノホン
(請求記号 375.412/Mo31/2-3)



エノホン
(請求記号 375.72/Mo31/1-2)

◆新着図書について

新しい資料は、1階入口付近に約1ヵ月間配架しています。
図書館には新しい資料がどんどん入ってきます。ぜひチェックしてみてくださいね。



◆新規購入資料に関するお知らせ

『The Shakespeare collection』
—DVDシェイクスピア全集—(全37巻)
〈分館1階視聴覚コーナー〉

ウィリアム・シェイクスピアの全戯曲を映像化したシリーズです。(イギリスBBC制作)

有名な「ロミオとジュリエット」など37作品の他、解説書もありますのでぜひご利用ください。



◆四庫全書コーナー等、別置資料一覧

分館では、利用頻度の高いシリーズ資料について、コーナーを設けて別置しています。
コーナー名、配架場所はOPACの検索結果に表示されます。

館内にフロアガイドを掲示していますので、資料を探す時は参考にしてください。

| |
|----------------------------|
| 四庫全書コーナー |
| 東洋史基本文献コーナー (2008年9月設置) |
| 大日本史料コーナー |
| 往来物大系コーナー |
| 日本思想大系コーナー |

| | |
|--------------------|-------------------|
| 古典文学大系及び 叢書コーナー | 『日本古典文学大系』(岩波書店) |
| | 『新日本古典文学大系』(岩波書店) |
| | 『日本古典文学全集』(小学館) |
| | 『新編日本古典文学全集』(小学館) |

雑誌室より

E校舎地階

◆保育・幼児教育関係雑誌の紹介

平成20年度に新たに購入した雑誌の中で、特に保育や幼児教育に関わりの深い雑誌の一部をご紹介します。

●●● Nocco (フレーベル館) 【新規所蔵】 ●●●



配架先：雑誌室一般書架 〈請求記号：P376/N93〉

子どもに人気のキャラクターを使った創作や手軽に出来る遊び・運動などを紹介した雑誌です。

保護者と保育者の関わり方をはじめ、月号巻末には保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂に合わせて作られた「指導計画と保育の資料」が掲載されており、指導計画を考える際に役立つ雑誌です。

カラーページも多く、子供と一緒に読んでも楽しめる雑誌です。

●●● 月刊クーヨン (クレヨンハウス) 【新規所蔵】 ●●●



配架先：雑誌室一般書架 〈請求記号：P599/Ku98〉

オーガニックをキーワードに素朴さや自然との上手な関わり方、シンプルな暮らしを紹介する育児雑誌です。

この雑誌を読めば、育児は「大変」「キュウクツな生活」といったイメージを払拭してくれます。

雑誌で取り上げられる内容は食事・生活・教育・遊びなど多岐にわたっており、すぐにでも真似したくなる生活が盛り沢山です。

●●● 月刊MOE (白泉社) 【新規所蔵】 ●●●



配架先：雑誌室新聞・軽雑誌コーナー (雑誌室入口付近)
〈請求記号：P726/Mo14〉

※本館5階新聞・雑誌コーナーと分館地下1階新聞・雑誌コーナーにも配架しています。

特に絵本の紹介ページが充実しており、絵本のみならず、絵本にまつわる世界観といった月号特色のある特集が組まれています。

絵本紹介の他には展覧会情報やエッセイなども掲載されています。子どもだけでなく、大人も楽しめる絵本の魅力が詰まっています。

0・1・2歳児の保育 (小学館)

配架先：雑誌室一般書架 〈請求記号：P376/Y73〉

0～2歳児の乳児の保育についての雑誌です。

手作り玩具の作り方や遊び歌の紹介の他に、年齢別に実践的な保育指導計画が掲載されており、保育者の「努力」や「苦労」「やりがい」等、この雑誌だからこそ分かる保育の現実が描かれています。



3・4・5歳児の保育 (小学館)

配架先：雑誌室一般書架 〈請求記号：P376/Sa61〉

3～5歳児を対象とした幼児保育の雑誌です。

毎号テーマに沿った文献やインタビューが掲載されています。

食事・運動・遊戯・園外活動など実際の保育現場を重視した内容になっています。

毎号に年齢別指導計画が掲載されています。

この雑誌に紹介される多様な子供たちの姿を知る事は、保育者を目指す方にも将来母親になる時にも役立つことでしょう。



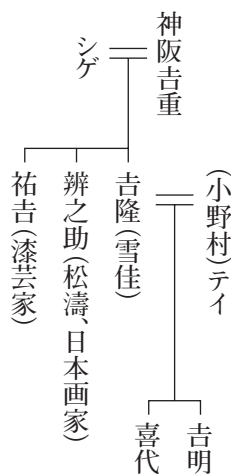
「江湖快心録」雪佳が語る

— 図書資料としての新聞 —

はじめに

京都の近代工芸を語る時、神坂雪佳(吉隆)に必ず出会う。雪佳が凶案界を再生した原動力と認められる故のことである。

神坂吉隆は、京都東山粟田口に神坂吉重とシゲの長男として生を享けた。時に慶応二1866年正月十二日、睦仁親王踐祚の丁度一年前である。



昭和十七年1942年正月、七十七歳の生涯を終える。「光照院賢言 祥観雪佳居士」。竹内栖鳳も同年八月に歿しており、この年、京都画壇の二星が墜ちたことになる。

この「神坂雪佳」は「神坂雪佳」名で諸資料に登場するし、『染織海路』明治三十五年、芸艸堂等も「神坂雪佳」名となっている。かかる問題も含めて今最も重要な資料の一つに新聞記事がある。新聞記事は、大略、同時代性を有し、本人がそこに関与している場合が多い。雪佳の場合も例外ではあり得ない。ところが、多くの場合、新聞記事は見つけにくく、等閑に付されるのが現実である。

そこで、向後の事を考え、ここでは『京都新聞』の前身たる『日出新聞』及び『京都日出新聞』から雪佳関係記事の幾つかを拾い全文を紹介し、些かの知見を述べる。

ここで扱う記事の主なるものは次の四点である。

- (1) 明治三十五1902年一月二十八日・二十九日付『京都日出新聞』掲載「神坂雪佳氏の意匠工藝談」
- (2) 明治四十一1908年九月二十日付第7657号第五面「日曜文壇」掲載、黒田天外稿「江湖快心録」
- (3) 明治四十三1910年七月十日付第8295号第一面掲載「京名物八十八 神坂雪佳氏」
- (4) 昭和十七1942年正月七日付第19748号第三面掲載、神坂雪佳死亡告知記事

以下、順を追って紹介する。可能な限り旧漢字を保守。

一 「神坂雪佳氏の意匠工藝談」

本記事は、欧州凶案事情を視察して帰朝した神坂雪佳が、その報告をなした記事。一月二十八日付で

第一 曲線應用まげまがかりよう

第二 室内裝飾しつぷないまうずけ

を、一月二十九日付で

第三 東西嗜好の差異とうざいしかうのさあひ

第四 彫刻てうこく

を載す。全105行、一行22字詰。当該記事は明治三十五年三月二

十五日発行『図按』第二号(大日本図案協会)に転載され、端書に

左の一遍は京都日の出新聞に掲載せしものにて参考に資すべきものあれば茲に轉載す

とある。『図按』誌は後に東京フジミ書房から平成十二年十一月復刻発行されている。『図按』誌と新聞の主な違いは次の二点。

(ア)新聞は総ルビであるが、『図按』誌ではほとんどルビは無い。

(イ)『図按』誌では末尾に東京高等工業学校学生の机案図が載る。このアルヌボー様式の図案は新聞には存在しない。

○神阪雪佳氏の意匠工藝談

第一 曲線應用

曲線應用とは誰が附したる譯名かは知らざれども佛國にては然か言はずアルヌボー即ち新美術と稱し居れり我藤原鎌倉時代の製品は凡て曲線應用にして今更珍らしく喋々する程の事にあらず唯今の所謂曲線應用即新美術は眞の美術と稱すべきにあらず倫敦あたりにて何がな人目を牽くべき物を作らんとて作り出したるを新奇を好む歐洲人の常として忽ち佛國に渡り獨逸に移り澳地利に擴まるに至りしなり

余が巴里着の節久保田米齋氏は大に佛國の新美術を研究せよと勧めたり余は最初より新美術の厭ふべきに嘔吐を催ふす程なれど兎に角見て置かんと巴里市中を巡りたるに新美術の看板を出せるものとは一二軒あるのみ就て其製品を観たる中には一二の賞すべきものあるも他は美術の名を下すべきものにあらざるに愈余が所信の愈らざるを知り即又巴里の一二美術家に就て新美術の事を問ひたるにアルヌボーと云はずしてマカロニーアルヌボー即ち饅

飴美術と惡稱して今は全く流行を去り維也納に於て瓶式に僅に餘命を保つ彼の饅飴に似てクナクと長く曲たる美術は論ずるに足らずと大に冷笑せり余は今尙日本に書籍の表紙其他に盛に用ひらるゝを見て甚歎はしく思へり余も渡航以前には多少新美術を應用したる事あるもこれは唯人の注文に依り不得已に出たるものにして余が本心にあらざりし今後も余は新美術を應用するの意志なし

第二 室内裝飾

渡航以前歐洲室内裝飾品の意匠を托せらるゝに當ては實際如何にすれば即彼に適するやを圖るに苦み實は思ひの儘を作りたるが今回の渡航に「ウキンゾル」宮殿其他を拜觀せしに頗意思の外に出でたり同宮は天井、欄間は皆金ピカの彫刻を爲し壁間も亦油繪、ゴブラン、彫刻等を以て空隙を餘さず、棚、机、ストーブ等の上には限なく彫刻、其他の美術品を陳列せり、而して一二の室には我時繪の扉を應用したる棚及び純粹の日本製の棚あるを見たり宮室既に如斯一私人の邸宅の裝飾亦之に倣ひ、日本の室内の可成裝飾を質素にするに比しては全く反對なるを知りたり、從て室内裝飾に使用すべき物品の製作上には今後大に注意すべき處あるべきも去迎一事一物に接せざれば之を明言し難し唯屏風の類には必ず腰板を用ふべきを知りたり、倫敦の某博物館に我屏風の陳列せられあるを見て靴の障らざるやを氣遣ひたる程なり我室内裝飾品は我國粹を忘るべからざるも歐洲向のものには大に歐洲の風を折衷すべき也我純粹粧飾品を用ふべき様様の室内の構造を改めしめんとする如きは到底企及すべからざる也

(未完、八木注、以上一月二十八日分)

第三 東西嗜好の差異

里昂に於て直に異様の感を感じたるは歐洲人の何かなしに華麗を好むに在りて六十位の婆が花冠を戴き赤衣を着けて大道を潤歩し人の異とせざるに在り余等の眼よりは狂人としか思はれず一切万事凡て如此なるも居る事の久しきに随ひ遂には慣れてこれを異とせざるに至れり

されば織物の模様の様もこの範圍を免れずして余が携行きたる織物の見本を彼地の意匠家に示せしに日本人は何ゆへに斯くくすんだ色を好むやと先反問を受け而して圖案にても唯巧妙なるには相違なきも歐洲人の嗜好に適應せざるを遺憾とすとの挨拶を爲したり

又或意匠家に就て太く日本人の意に適應する圖案を見て之を賞せしに彼はこれは唯博覽會出品の爲に作りたるものにして實用を旨としたるに非ざるといへり

染模様の様も彼地にてはその實物に近からん事を求めて色彩に苦心するも我國にては燕子花なれば燕子花の儘の色にては承知せず必ず其色に一種のさびを附けざるべからず、陶器に至ても六兵衛風の物を見れば彼は其雅味を解せずして直に目して野蠻といふ而して我に在ては凡ての織巧なるものを愛して其極この風雅なるものを愛するに至れるを知らず

圖案に就て我國にては或は古歌の意を取り或は古人の製作を折衷する等一事一物其見へた丈にては納得せず必ず故事來歴のあるを喜ぶも彼地にては即之に反し見たまゝのものにて納得す、此邊より察すればどうしても意匠圖案等に就ては我國の方が一歩進める

が如し、されば歐洲人の注文は我國人の注文に應ずるよりも甚氣樂なり

第四 彫刻

然し彫刻に至ては到底我國は彼に及ばず巴里里昂にては門を出れば及ち紀念像、内に入れば乃ち柱楹目に觸るもの彫刻ならざるはなし其斯く需用の多きに從て技術も愈進歩し政府の奨励も甚行届きて彼美術學校にては三年の修學が濟めば羅馬に佛國政府が設置せる美術學校に入らしめこゝにて再修業せしめ、而して其製品は之を政府に買上ぐるといふ風にして技術も實は進まざるを得ざる様組織せられ居れり

其學校に就いては教師生徒共に泥だらけに爲り木屑だらけに成つて働き孜孜研究せる様我國師弟の階級を分てるの比にあらず、又彫刻家には婦人にして六十幾歳の齡に在りながら尙研究に怠らず予が其家を訪ひたる時は糸にて身体を纏へる何とかの理想に出たるものを彫刻し居りたり唯彼等は熱心なれば熱心なる丈製作に年月を盡すが故に收入の割合には貧困し居れるが如し

彫刻は十二世紀以來のものを見たるがこの世紀のものは我奈良朝時代の如し刀痕頗るボンヤリし居るも十六七世紀は鎌倉時代の如く刀痕深くして且鮮麗なり彫刻の材料は矢張櫻の類、大理石の類にして器物はたがね小刀共我國と殆ど異らざるが如し

(完、八木注、一月二十九日付分)

新聞記事では部分的に誤植等があるが、可能な限りそのママとした。また、「図按」に転載の折、故意を以て文字を変更する部分があるがそのままにした。

二 黒田天外「江湖快心録」— 図案家の白眉 —

本記事は美術評論家黒田天外の取材に応じたもので、約2600字の弱の記事。マイクロフィルム版『京都日出新聞』（京都女子大学図書館雑誌室、請求記号071MR/K56/117）で確認すると次の如くである。

誌室、請求記号071MR/K56/117）で確認すると次の如くである。

つまり、マイクロフィルム版では五段目の一部分に欠損が生じており、判読不可能となっている。京都府立総合資料館で原本（請求記号、Zヤム2）を確認すると、この欠損は原本段階で生じているものと知られる。次いで、国立国会図書館本（請求記号、新15）を確認すると、これには欠損は認められない。すなわち、当該「江湖快心録」としては、国立国会図書館本が最善本ということになる。故に本稿では、国立国会図書館本の電子複写に依つて全文を紹介しておく。原本ですでに活字の潰れ等があり、判読が難しいからである。



相互補助

第三章 贗人間の相互補助

（以下は本文の複製）

江湖快心録



（以下は本文の複製）

（以下は本文の複製）

江湖快心録

黒田天外

圖案家の白眉

1 九月六日、京都圖案家の白眉神阪雪佳氏を新町榎木町角の宅に訪ふ。此方へとのどに其應接室に通れば、卓子を圍んで藤椅子あり、竹樹婆娑たる小庭に面し、硝子障子巧みに柀竹を嵌し、外面に小簾を掲げ、壁上には伊年のほうづき數十を描ける横幅を懸たるが、筆致豪宕高逸にして頗る喜ぶべし。須臾にして氏出來り、一揖して款語す、乃ち余の間に答へて曰く、私の家は禁裏御中で、祖父の頃まで調度の御用など勤めて居りましたので、私の生れたのは粟田でムいます。幼年の時から畫が好でムいたから、十三四の頃から鹽川文鱗の門人小野村賢舉といふが親族でもあり、それに就いて初めて畫を學び、後に鈴木瑞彦につき、繪畫、及び圖案を學びました。

17 其後東京の皇宮御造營について、京都の川島、飯田二氏が室内裝飾織物の御用を蒙り、

20 時西陣で稻垣といふ老人一人で、それも普通のものは出来るが、新たにこしらへるものは出来ません。そこで畫家の景年、宗立・米

23 僊などの人々が頻りに新圖案を作らるゝとなり、私も研究かたぐ、米禮さんが圖案を作られると、私が着色をするといふ鹽梅で助手をなし、非常に面白く思ふて居りました。

28 それでこの圖案をやるには、工藝品の組織を知らねばならんから、一二年間は高倉の錦から川島氏の一條の工場へ日々通ふて織物の配色、其他種々研究なし。また金屬では紹美氏の宅へいつて、圖案を作りかたがた合金、着色、其他の之を研究し。蒔繪はこしらへて見ねば分らんから、自ら小匣を作つたり、また實地を觀察したり、簡様にしている、研究を致しました。

37 はい、高倉の錦といふは品川子爵の尊攘堂で、其頃私の父が閑散で居りました處から、書肆田中の紹介で同堂の留守居を致し私も七年ほど其處に居りましたので、丁度明治二十三年の頃、子爵は獨逸公使を罷て歸られ、時々同堂へ御出になりましたが、子爵は私が畫を描きますのを見て、かねがね先師松陰先生の繪卷物をこしらへたいと思ふてゐるので、詞書は己が書くが、汝は畫を描て見ないかとので、少しやりかけ

47 たどもムいますし。また繪畫も結構であるが、美術工藝を發達せしむるには意匠圖案が必要で、外國では非常に貴重しておるか

49 ら、一つ其方を十分やつて見ないかとの御談話。で私もかねがね其方は好な道でムい

52 ますが、どうもよい師匠がなうて困つて居りますと申しますと。夫では己が紹介して

54 やろうとので、遂に岸光景氏の方へ入門するとなりましたが。其頃岸氏は一時京都へ來て居られました、また東京へ歸られた後は私も彼地へ參り、而して頻りと圖案の研究を致しました、只今玄關にかけて置ます品川子爵の心織筆耕といふ額は、その頃子爵の書て下さつたもので、之を見て始終研究せいと、ので、ムいました。

62 それから明治二十九年の頃で、當時京都に於る漆器、蒔繪の衰頽は實に其極に達し何處の博覽會、展覽會でも東京其他より退步して、衰狀ぐらいより貴へない。そこで當地の内貴、雨森、西村などいふ有力者の骨折で、せめて圖案からでも改良して獎勵し

68 たらよからうとので、京都市漆器蒔繪圖案調製所といふを御苑内博覽協會の一部に設け、市から岸光景氏を顧問に囑托し、私

- 71 は主任で三人ほど率ひ、晝夜寢食を忘れて
 72 圖案調整に従事しましたが、これは市で金
 73 を出し當業者へ無代にて圖案をやるので、
 74 此際は私も好きな畫を描く暇も無いませんで
 75 した。
 76 處が此の獎勵と當業者の覺醒で、京都の
 77 漆器時繪も非常に進歩なし、そここの共
 78 進會等で金牌や銀牌を得るやうになりまし
 79 たから、市でももうこゝまで進んだのだか
 80 ら、補助獎勵は止てもよからうとのことで、
 81 遂に五ヶ年で圖案製所を閉すととなり、
 82 私は更に美術工藝學校の技師を囑托され、
 83 同校の依頼製作を擔任するにになりました
 84 が、それは三十三年の四月で△います。そ
 85 れで初めは生徒の教授は致しませなんだが
 86 次で教諭兼技師となり、翌三十四年七月京
 87 都市の命を受け歐洲各國の美術工藝を視察
 88 することとなり、同時に農商務省より英國
 89 (マ) プラスゴ博覽會の意匠圖案取調を囑托さ
 90 れました。そこで先づ巴里に着き、直ぐ英
 91 國に赴いてグラスゴ博覽會を觀覽し、
 92 夫より白耳義、和蘭、獨逸、奧大利より、ミ
 93 ユンヘンを経て巴里へ戻り、更に瑞西を視
 94 察し、元の道を印度を過ぎ歸りましたので、
 95 巡回したのは総て七ヶ國、往復ともで七ヶ
 96 月で△いました。
 97 それで意匠圖案については、從來外國の
 98 雜誌や書物を見ておりますし、彼地では巴
 99 リ博覽會後でアールヌーボーが恰かも流行
 100 り止んだ時で、夫に代るべき面白い意匠も
 101 未だありませんでしたから、さして感ずる
 102 程の事も無いませなんだ。洋畫家などでは
 103 彼地に名畫も多く、良師もあり、是非出か
 104 けねばならんですが、圖案家などは十分日
 105 本で頭腦をこしらへ、夫から一度見てくれ
 106 ばよいやうで△います。
 107 此頃は圖案家も澤山出来ましたから私は
 108 あまりやりません。それで師匠の岸氏など
 109 が、光悅、光琳は立派な意匠家なるのみな
 110 らず、人物といひ、繪畫といひ、實に稀世
 111 の豪傑であるから、せめて其筆墨の型だけ
 112 でも残したいとのことで、私も繪畫は樂しみ
 113 として、主として光悅、光琳の風を學んで
 114 居ります。と、
 115 氏は斯く語りつゝ、起て其意匠になる鷺
 116 の食籠、其他二三を示し、また恭やしく一
 117 小幅を壁上に掛けしが、圖は直搦の老爺を
 118 畫きしもので、羽織は青、衣服、袴は丹を
 119 塗り、黒沓を穿たせ、筆致恰かも鳥羽繪の
 120 如し。氏曰く、これは 今上陛下八歳の時
 121 の御筆で、私の母家の祖父が宮中に奉公し
 122 陛下の御傳をして居りました時、一日爺を
 123 畫てやらうと仰せられ、御畫きになりました
 124 たのがこれ、圖は祖父の肖像で、鬚の一風
 125 ある處がよく肖て居るさうで△います。そ
 126 こでもう一枚願ひますと申上げますと、よ
 127 しくと更に一枚下されましたのは、目下
 128 母家に保存して居ります。と、乃ち恭やし
 129 く拜觀するに、恰かも十二三歳の小兒に、
 130 鬚をのせたる如きも、然も其姿態の完整に
 131 して、筆力の潤達なる、到底八歳の御筆と
 132 は見奉つらず、當初やはり名ある畫家の草
 133 筆ならんと思ひし程なりき。麟鳳は小々に
 134 して早く吉彩祥光をあらはす、申すも畏き
 135 わが 叡聖文武天皇陛下が八歳の御筆、
 136 早く宇宙を吞吐すべき潤達の御氣性を露は
 137 し玉ふも尊ときの極みにて、また神阪家の
 138 至寶と謂ふべく、拜觀之を久ふしき。
 139 氏今年四十三歳、資性勤恪慎密にして、泛
 140 交を好まず、聲名隆起して夜々に研鑽に
 141 力む、また獲易からざる異材といふべし。
 142 談話二時許、乃ち辭し歸る。

以上が『日出新聞』「江湖快心録―凶案家の白眉―」の全文。
黒田天外は、「江湖快心録」を後に纏めて書籍とした。

○『江湖快心録』(芸艸堂、明治三十四1901年)

白川の花隠子以下十九篇

○『続江湖快心録』(京都文具教育商報社、明治四十1907年)

山県侯の無隣庵以下二十四篇

○『続々江湖快心録』(芸艸堂、大正二1913年)

金地院の老師以下三十一篇

の三冊。(この三冊については同志社女子大学請求記号281/47341-3
図書館の御好意に依り見る事を得た。記して謝意を表す。)神阪
雪佳を扱う「凶案家の白眉」は『続々江湖快心録』に備う。両者を
比較して見ると、ルビの有無や「と」字を「こと」とする以外にも
手が増えられている。そこで両者の比較一覧表を次に付しておく。

「凶案家の白眉」比較表

| 行 | 新聞記事該当部分 | 『続々江湖快心録』部分 |
|---------|----------------------------|---------------------------------|
| 1行目 | 九月六日 | 同年九月六日 |
| 3行目 | 卓子を圍んで | 一卓子を圍んで |
| 9～10行目 | 禁裏御中で、 | 御所侍で、 |
| 14行目 | でもあり、 | ですから、 |
| 19行目 | 専門といふは、 | 専門では、 |
| 20～22行目 | それも普通のものは出来るが、新たにこしらへることは、 | それもあり来りのものばかりで、新しいかわつたものは出来ません。 |

| | | |
|-----------|--------------------------|--------------|
| 28～29行目 | 工藝品の組織を | 工藝品の製作組織を |
| 29行目 | ならんから、 | ならんと云ふ必要から、 |
| 31行目 | 織物の配色 | 織物の色 |
| 33～34行目 | 蒔繪はこしらへて見ねば | 蒔繪は製作せねば |
| 39行目 | 同堂の留守居を | 同堂の留守を |
| 58行目 | 只今玄關にかけて、 | 只今かけて |
| 72行目 | 圖案調整に従事 | 圖案調整其外製作上に従事 |
| 110～111行目 | 繪畫といひ、實に稀世の豪傑であるから、せめて | 繪畫といひ、せめて、 |
| 115～128行目 | 氏は斯く語りつゝ、…… 拜觀之を久ふしき。 | ナシ |

上の新聞記事「江湖快心録―凶案家の白眉―」は、『とうか会』(芸艸堂、明治四十1907年)に浅井忠と共に参加し、『日々世草』(芸艸堂、明治四十二1909年)明治四十三年)を発行する間の出来事で、青木嵩山堂(青木恒三郎)から『京都名所画譜』・『古代風俗』・『狩野家画譜』『風俗画譜』等が出版された年である。上京区新町通榎木町に黒田天外が訪い、凶案家神阪雪佳の由つて来たる所を問い応えたものである。

ここで雪佳が言を総合するならば、雪佳にとっての凶案は家業である、との認識に立っている点が重要である。通常、品川弥二郎によって装飾芸術に対して開眼したとされるが、当該記事に依れば、それ以前から彼は凶案に対する心を有している。故に、図書館資料的には再検討の余地があることを示している。

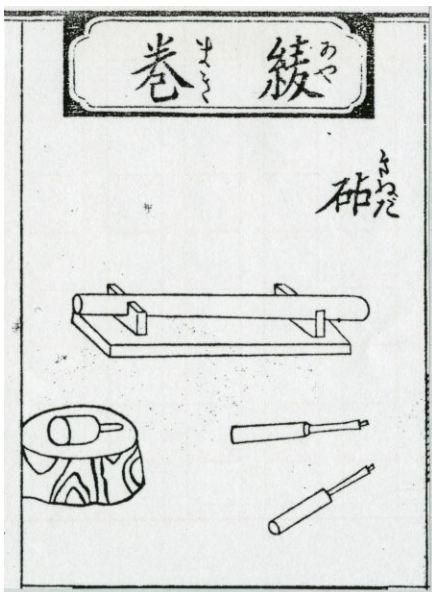
また、新聞記事「江湖快心録―図案家の白眉―」には、神坂雪佳の「きぬた」図を中央に据える図2。この衣打つ図は、雪佳独自とも謂う可く、他者の画とは異なっている。そもく雪佳にとつて砧図は重要画題の一つであつて、これを扱った作品も数多い。京都国立近代美術館で催された(2003年8月30日〜10月13日)「琳派の継承・近代デザインの先駆者神坂雪佳」展の図録には、都合8作品が収録されている。この季節感に充ちた人事題「砧」は、雪佳お気に入りの一つであつた。

「砧」には二種存し、「綾巻」と称する器具を使用する場合と、切株等の平面台を使用する場合とである。この二種を一図に示したものととして貞享四1687年刊の『女用訓蒙図彙』がある(京女請求記号、381.0)。但し、京女本は近代になって大阪だるまや書店版後摺本の電子複写本。故にここでは個人蔵本を使用)。ここではこれ(図3)と京都女子大学図書館架蔵複製版『百々世草』(請求記号、727/K43)から一図(図4)、および個人蔵『寛齋聚美画譜』(芸艸堂、刊年不明)から一図(図5)を併せて掲げておく。違いを愉しみたい。

ただし、『続々江湖快心録』では「きぬた」を廃し、『筏師図』(図6)に替えている。



△図2 新聞記事付載雪佳画「きぬた」



△図3 『女用訓蒙図彙』所載



△図4 『百々世草』所載
雪佳画「砧図」



△図5 『寛齋聚美画譜』所載
「月下擣衣」

△図6 『続々江湖快心録』掲載
雪佳画「筏師図」



三 明治四十三(1910)年七月十日付『京都日出新聞』第8295号第一面記事「京名物(八十八) 神阪雪佳氏」

この記事は、『百々世草』(三冊、明治四十二年(1913)年)完成頃のものである。挿画は所謂「うた絵」。昭和九(1934)年刊『うた絵』に赴く途中のもので、二十数年前に既にこの道を歩んでいたと知られる。

京名物(八十八)

▲神阪雪佳氏

圖案家、裝飾畫家としての雪佳神阪吉隆氏は世既に定評がある、氏は今日の京都美術壇に於て無くてならぬ人の一たるに價する、現に市立美術工藝學校教諭として圖案裝飾の方面には皆一に氏の指導を仰ぐこととなつて居る、京都に生れ京都に育ちたる古典趣味の人、其みやびなる風采はやがて其藝術の或消息を洩すものではなからうか、古い人形などを蒐集して古名匠の匂ひにあこがるゝところなど、慥かに氏の特性を視ふに足るべきものがある、畫は鈴木瑞彦に學び圖案は岸光景に教をうけたが、今は只管光琳、宗達、乾山あたりの遺風を慕ふて居る、門下には古谷紅麟氏を出し令弟には同姓の松濤君がある、紅麟氏が京都圖案界に於ける地位や、松濤氏が曩に丙午畫會に加盟し關西美術院で一人前のデッサンをやつたなどを偲ぶ時、氏にも又多方面の趣味性があるを聯想せずには居られぬ、おとなしいお方ですとは一般の通評であるけれど負けじ魂もあり甚だ伶俐なる一面のあることも見落す譯には行かぬ、其筋の命に依り明

治廿四年英國グラスゴー博覽會に出張して意匠圖案の取調べに従ふたともある、此歌繪は源重之の「ゆく水の岸にほへる女郎花しのひに浪やおもひかくらむ」を想化したるもの、氏の藝術の一端を知るにはまことに恰好のものであらう。

四 昭和十七1942年正月七日付死亡記事

『京都新聞』に載る神阪雪佳の死亡記事は次の通り。記事では一行十五字詰めなれどこれを無視して追込みとした。

神阪雪佳氏 圖案家として有名な神阪雪佳氏は豫て病氣療養中のところ五日午後六時逝去した、享年七十六

同畫伯は慶應二年京都に生れ、幼にして四條派畫家鈴木瑞彦に學び、明治廿二年品川子爵の説に発奮し圖案に志し、時の帝室技納員岸光景氏に師事す、同廿九年市立美術工藝圖案調整所主任を囑託、卅四年農商務省より歐洲へ派遣され、歸朝後京都工藝界に盡し、大正八年内閣より工藝審査會委員を被仰附、昭和十二年佛國より勲章を授與、昭和十三年五月京都美術館評議員囑託、その間圖案に關する著書多し、大作中有名なのは久邇宮家御下命作品をはじめヒトラー總統に賜與せる花車の考案等多多あつた

なほ葬儀は十日午後一時から三時まで寺町四條下る大雲院で執行する

右に依れば、神阪雪佳は昭和十七年正月五日に身罷つた。と

ころが、二〇〇三(平成十五)年〜二〇〇四年に催された「琳派の継承・近代デザインの先駆者神坂雪佳」展図録に備う「神坂雪佳略年譜」(小倉実子編)では

昭和十七年77歳 1月4日 雪佳亡くなる。戒名は光照院賢嘗 祥觀雪佳居士。

1月10日 大雲院において葬儀が営まれる。

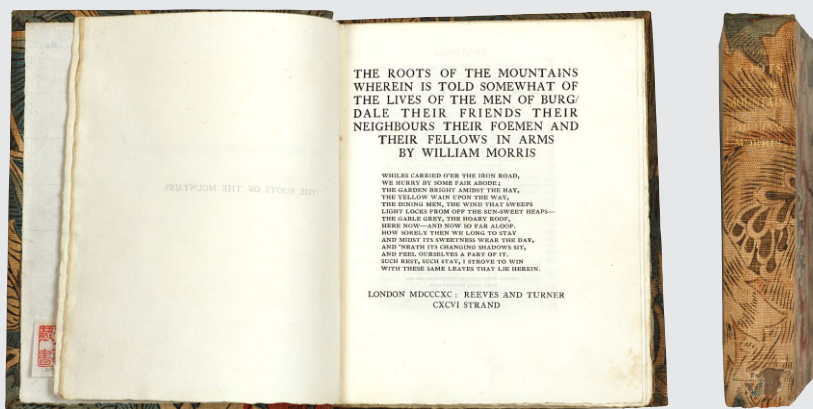
としている。すなわち、正月中であつたが為か逝去日に一日の差があることになる。実日と公表日との違いか否かはさて置いて、差のあることだけは記録しておく必要がある。

おわりに

「神坂吉隆」名の「神坂」は戸籍係が誤つたもので、元来は「神坂」字であつたという。この故に、多くの近代論者は「神坂雪佳」と彼を呼ぶ。しかし誤解してはならないのはたとえ戸籍係が間違えようが戸籍名は「神坂」であつた点にある。そこで新聞記事は一貫して「神坂」を用いている。『染織圖案海路』も「神坂雪佳」名となつている。そんな彼が「神坂雪佳」名を使用するのは何時からか。

新聞という図書館資料は、同時代資料である。そこで、図書館資料としての新聞を、雪佳を考える為に紹介してみたのである。

〔追記〕本稿は本学図書館関係窓口の連携によって資料を蒐め、本学内同好会「雪佳研究会」で検討を加えたものを八木が成文化した。従つて文責は八木にある。



THE ROOTS OF THE MOUNTAINS
WHEREIN IS TOLD SOMEWHAT OF
THE LIVES OF THE MEN OF BURG/
DALE THEIR FRIENDS THEIR
NEIGHBOURS THEIR FOEMEN AND
THEIR FELLOWS IN ARMS
BY WILLIAM MORRIS

WHILES CARVED OVER THE IRON ROAD,
WE HURRY BY SOME FAIR ADOBE,
THE GARDEN BRIGHT AMIDST THE DAY,
THE BELLOW WASH UPON THE WAY,
THE DRIVING MEN, THE WIND THAT SWEEPS
LIGHT LOCKS FROM OFF THE SMOKE-FET HEAPS—
THE TABLE SERVE, THE HONEY SPOON,
HERE NOW—AND NOW SO FAR ALOOF,
HOW GREAT'S THEN WE LONG TO STAY,
AND MEET ITS SWEETNESS WEAR THE DAY,
AND THERE ITS CLEANING BEADONS SET,
AND FEEL OURSELVES A PART OF IT,
SUCH BEAT, SUCH STAY, I TROUVE TO WIN
WITH THESE SAME LEAVES THAT LIE HEREIN.

LONDON MDCCCXC : REEVES AND TURNER
CCXVI STRAND

KWU Library News 発行／京都女子大学・京都女子大学短期大学部 図書館

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35番地

TEL: 本館 075-531-7070／分館 075-531-9010／雑誌室 075-531-7069

E-mail: tosho@kyoto-wu.ac.jp

平成21年3月発行